

J.W. ゲーテ大学 (フランクフルト)

1994/95機関報告

重盛千香子

所属： 東洋・東アジア言語学科
Institut für Orientalische und Ostasiatische Philologien
名称： 日本学研究室 Japanologisches Seminar
住所： Elbingerstr. 1, 60487 Frankfurt am Main, GERMANY
設立： 1981 年
図書室蔵書数：約 30,000 冊
制度： 4 年半 (9 学期) 制修士課程 主専攻または副専攻
スタッフ：常勤：代表者 Ekkehard May (Prof. Dr. 近世・現代文学)
Guido Woldering (M.A. 近世文学)
重盛千香子 (M.A. 外国人講師)
非常勤：Chongja Bemeleit-Li (韓国語講師)
Bernd Jesse, Dr. Phil.
松戸行雄 Dr. Phil.
Martina Schönbein, Dr.Phil.
修士課程の学生アルバイト 2 人 (図書室、事務など)
秘書一人

学生数 (1995 年 3 月現在) :	主専攻	57
	副専攻	33
	聴講生	4
	韓国語受講者	8
	博士課程	13
	教授資格取得志願者	1
	計	114 名

設立より現在までの修士課程終了者：33
博士課程終了者：2

ゲーテ大学の学生は、主専攻 1 科目、副専攻 2 科目を義務づけられている。日本学を主専攻とする学生は、副専攻に中国語を選ぶことを勧められる。その他の副専攻は、独語・独文学、英語・英文学、米語・米文学、哲学などが多い。日本学を副専攻とする学生の主専攻は、自然科学系 (工学、化学など)、政治学、法学、経済学、情報科学など。

終了後の進路

図書館司書、外交関係、商・工業関係、国際組織、文化事業（滞日ドイツ語講師を含む）、博物館、美術館、新聞社、出版社、旅行業、翻訳・通訳業など。

日本学カリキュラム（1コマ45分） 注：*印は、日本学を副専攻とする者は、履修しないでよい。外はすべて必修。
#印は語学教育（外国人講師担当）

	講義名称	コマ数
1 学年冬学期	オリエンテーション	(面接)
	現代日本語 I	7 コマ/週 #
	日本学概論	2
	日本文化史	2
1 学年夏学期	現代日本語 II	7 #
	現代日本語文法 I	2
	日本文学概論	2
2 学年冬学期	現代日本語 III	7 #
	現代日本語文法 II	2
	古文文法	2 *
2 学年夏学期	日本語文献の扱い方	2
	日本現代小説講読	2
	新聞講読	2 #
3 学年冬学期	古文読本分析	2 *
	日本現代文学 1	2
	現代日本語中級 I	2 #
3 学年夏学期	現代日本語中級 II	2 #*
	日本近世文学 1	2 *
4 学年冬学期	日本現代文学 2	2
4 学年夏学期	日本近世文学 2	2 *

語学教育（外国人講師担当、#印）の教材

Bruno LEWIN: Einführung in die japanische Sprache, Harrasowitz Verlag,
Wiesbaden 1990.

水谷信子 『総合日本語 初級から中級へ』 凡人社 1990.

Osamu & Nobuko MIZUTANI: Introduction to Modern Japanese, Japan Times,
1987.

Osamu & Nobuko MIZUTANI: Aural Comprehension Practice in Japanese,
Japan Times, 1979.

その他、市販・自作教材の組み合わせ

問題点、気がついたことなど

1. まったくの初歩から四技能を積み上げていく語学コース（講義名「現代日本語」）が、入学後の3学期分（1年半）しかないため、この限られた授業時間内に、日本語の基礎を教えなければならない。
2. 上級（3年目ぐらい）で文学・古文の授業をこなせる学生を育てるのが目的のため、外国人講師一人の語学コースで、限られた時間内に、漢字教育にも力を入れる必要がある。
3. ここの日本学科では、卒業論文のテーマは文学に限られている。
上記三点は、例年の期間報告にも書いた通り、継続して存在する問題点である。学生の種類や学生数は、これらの制約でおおかた決まると言ってもよい。

どちらにしても、外国人講師一人で語学教育を受け持つて行かなければならない立場にあるので、フランクフルトという都市の特長を利用するように、日頃から学生を促すしかない。つまり、授業以外でもなるべく日本語と接する機会を持つように勧める。具体的には、

1. 日本人留学生との交換授業、
2. 日独協会などの活動を通しての日本人、日本文化との接触、
3. 日本語に接することのできるアルバイト（駐在員家族のドイツ語家庭教師、日本レストラン、日本人対象の旅行社で事務やガイド、フランクフルト空港のグラウンド業務）

などである。大都市で、在住日本人の数も多いため、これらの学生の活動に関しては恵まれた環境にあると言える。

最近の現象として、片親が日本人、または両親とも日本人だが、ドイツに生まれ育ってドイツの学校に通った子供達が、大学時代を迎えて日本学を主専攻または副専攻に選ぶ例が多くなった。そのような学生達の日本語レベルが多種多様であるのを目の当たりにしている。非日本人の学生の中にそのような学生が混じっている場合のレベルの調整もむずかしい。日本語教育の多様化の一面と言える。